

〈近畿支部・大阪事務所〉
**近畿支部京阪神事務所の「近畿学生
 相談研究会」への協力について**

近畿学生相談研究会の組織と運営

近畿学生相談研究会（以下・KSCA）は、昭和三十一年に東海・北陸・近畿地区学生補導厚生研究会（現在は、学生指導研究会）の近畿地区部会の専門委員会として発足し、学生相談に関する理論及び実際についての研究を行っている。参加機関は近畿二府四県の国・公・私立の大学、短期大学、高等専門学校等で構成され毎年例会三回と特別例会一回の研修会を実施している。

会務運営は総会において選出された幹事校（担当校）が運営にあたり、加盟校は平成一八年六月現在京滋地区三三校、阪奈和地区五八校、兵庫地区二八校、準加盟校五校と一機関の合計一三三校、一機関が参加している。研修会への参加は加盟校以外の大学等にも門戸を開いている。なお、この組織には、会長、副会長等の役員は置かれていない。

協力の経緯

京都、大阪、神戸支部（以下・京阪神支部）では、平成一七年度「大学等の地域的な連携を促進するための事業―支部における学生生活支援プログラム―」へ、京阪神支部より事業名称「KSCAへの運営協力」で申請をすることになったが、すでに組織が確立されている等の理由で不採用となった。

しかし、申請にあたり平成一七年度KSCA幹事校である佛教大学等へは、少なくとも例会、特別例会への人的協力は可能であると伝えていたため、六月のKSCA新旧幹事校会において、このことが審議されることとなった。また、支部は機構の窓口として、地域の学校、自治体、地域住民等と連携協力し事業を実施することからKSCAへの運営協力は自然の成り行きであった。

KSCAは前述したように近畿地区部会の専門委員会であり、また、日本学生支援機構（以下・機構）学生生活部（現在は支部主催）



第39回特別例会で演題「学生相談の心理学」を講演される
 関西福祉科学大学大学院研究科長 武田 建 教授

が当番大学と共に主催している近畿地区学生指導研修会は近畿地区部会の研修会であることから、KSCAと京阪神支部の連携を図る良い機会でもあった。

こうした経緯から平成一七年度KSCA新旧幹事校会議等で、京阪神支部が経費の負担を伴わない人的協力を行うことが審議された。このことは、新旧幹事校会議等の申し合わせ事項に記載されることとなったが、規約の改定は行われなかった。

協力の内容

KSCAは四〇数年の歴史を有し毎年三回開催されている。参加者は例会（日帰り）によって異なるが、平成一八年度に開催された第一二八回例会は一八三名、第二二九回例会は一五八名、第三九回特別例会（一泊二日）は八五名の参加者数であった。

例会は、大学教授等による学生相談関連の講演と「学生相談の基礎」「学生相談の実



第39回特別例会Dコース「グループワーク」
 ―呼吸と身体、そして信頼―

際「事例研究」の三分科会で行われ助言者がスクール形式で分科会を進行する。一八年度の特別例会は、大学教授等による学生相談関連の講演とA、B、Cコース「学生対応の基礎」、Dコース「グループワーク」、Eコース「事例研究」の五コースで行われ、二名の助言者により参加型形式で進められた。講演者の中には著名な大学教授も数多く含まれている。学生相談に関する研修会は、機構が後援している日本学生相談学会主催の全国学生相談研修会や、学生生活部が主催している学生相談インテーカーセミナー等がある。KSCAの参加者の中には、これらの研修会等に参加している教職員、カウンセラー等も数多く見られる。

KSCAへの人的協力は、平成一七年九月の甲南女子大学が担当した第一二七回例会から始め、京阪神支部から五名程度の職員を派遣している。具体的な協力内容は、受付、会場案内、片付け等で、仕事有一段落すると参加者と共に講演を受講できることもあり、有意義なものとなっている。

特別例会は宿泊を要するため、初日のみの協力である。これまで、例会三回、特別例会は二回協力を行っており、各担当校からその都度感謝の言葉をいただいている。今後も近畿支部としてKSCAへの人的協力を継続していきたい。

最後に、今回の寄稿に際し写真、データ等のご協力をいただいた関西外国語大学、武庫川女子大学に厚くお礼を申し上げます。